

令和7年度 1年SS基幹探究 探究基礎Ⅰ 報告

◇期 日：令和7年4月21日（月）からの毎週月曜日4限・木曜日6限

◇場 所：図書館・化学実験室・教室

◇参加者：第1学年探究科学科生徒81名

探究科学科1年のSS基幹探究 探究基礎Ⅰでは、生徒の「探究力」や「読み解く力」をつけるための学習を行った。各クラス8名、計16名の少人数で、国語、地歴公民、数学、理科、英語の授業が各教科3時間で展開された。

国語では、芥川龍之介作『羅生門』の読解にむけて、この作品のもととなった『今昔物語集』との読み比べを行い、2つの作品の表現の違いや作者の解釈を考察した。

数学では、 n の累乗の和を求めた。図形や数式を用いた数学的証明から解を出すために、4人の班員で話し合いより良い解法を見出した。これにより様々な視点から問題を解く大切な力を培うことができた。

英語では、文章から特定のキーワードを探して読解する「スキヤニング」を行った。実際の行事等の文章は、単語がわからずキーワードの特定に至らないことも度々あった。単語力を鍛えるとともに、「スキヤニング」という新たな武器を存分に使えるようにしたい。

理科では、物理、化学の実験を通してわかったことや考えたことを4人の班員でまとめ、発表し合った。中でも「ブラウン運動」では、微分子が液体や空気に浮かぶだけで激しく運動するため、非常に不思議に思った。



地歴公民では、歴史上の人物の1人を選び、その人物についてWordやPowerPointでまとめた。名前を知っていても、具体的に知らない人物について深く理解・考察することができた。

参加者の1人に話を聞くと、「普段の授業では扱わないところまで掘り下げるのが基幹探究の授業のいいところだと思う。みんなで話し合うことで仲も深まった」と話した。私たちは、基幹探究Ⅰの授業から自分たちで考え、探究する力を養うことができた。探究活動を楽しみつつ多くのことを学べた1学期となった。2学期からの「探究基礎Ⅱ」にも学んだことを生かしたい。